

- 現在、市内の約4割の小中学校が、築60年以上の校舎を保有している状況です。文科省は、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数を70年～80年程度としていますので、施設の更新は待ったなしの課題です。
- 一宮市では、施設の更新を「シン学校プロジェクト」として、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆様から御意見をいただいて、一緒に考えていきます。
- このワークショップでは、「シン学校プロジェクト（第1期）」で選定された「大和南小中学校区」の学校関係者、地域住民、保護者の皆さまからご意見伺います。そのご意見なども参考にしながら「一宮市大和南小学校基本計画」を作り上げていきます。
- ここでは、ワークショップで皆様から出された様々な意見をご紹介します。

●第3回ワークショップ（令和7年2月22日（土）開催）

近年、特別支援学級や通級学級の児童生徒数は増加し続けています。また、学校に行けなかったり、学校まで行っても教室に入れない児童生徒も増えてきています。そのような現状を踏まえ、「誰もが安心して過ごせる学校にするために」あらたな学校に何が必要かを皆さんと話し合いました。



《WS風景》

【大和南小・中学校の先生から現在の様々な支援の取組をお話していただきました】

【現在の不登校支援の取組】

<相談室・適応教室の設置>

- 適応教室は学校までは来れるが教室には行けない子のための場所（中学校）
- スクールサポートルームの設置を検討（担当の教員が付けられる）（中学校）
- 相談（相談室）→勉強（適応教室）→学級へのステップがある
- 心の相談室という取組があり、相談員とスクールカウンセラーが対応、週5日体制で稼働（中学校）

<通級学級>

- 通級は他の小学校から来てもよいが保護者の同伴・送り迎えが必要
- 通級に通っている子どもの、所属学級・学校での時間割等の配慮が必要
- 医療ケアが必要な子ども（吸引が必要等）の受け入れをしている学校もある

（参考）大和南小学校： 特別支援学級 7人 2学級

大和南中学校： 特別支援学級 7人 2学級 （2024年5月1日現在 一宮市HPより）

テーマ① 誰もが安心して過ごせる学校にするために

「多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設」「安全・安心な学校施設」について、意見を出し合いました。

多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設に関する主な意見

<配慮した空間・スペース>

- クールダウンスペース
- 通級の入り口を通常の入り口と分ける
- 個別に指導できる学習支援教室を設ける

<学習支援>

- 学習の補完指導ができるような場所。

<支援体制>

- 通級に通っている子どもの、所属学級・学校での時間割等の配慮が必要。
- 専属の教員が配置されたスクールサポートルームの設置

<保健室>

- シャワールの設置
- 処置、休養、相談、事務のスペースをそれぞれ確保する。

<ジェンダー>

- オールジェンダートイレは必要

<バリアフリー>

- 車いす対応のトイレの設置
- エレベーターの設置

<設備>

- 特別支援、通級学級の設備の充実
- 温水便座のトイレ

安全・安心な学校施設に関する主な意見

<安心して過ごせる空間>

- ひとりで過ごせる空間
- 教室のそばにデンなどの空間があるとよい。
- 階段の高さを小中それぞれの体格に合わせる。
- 自宅から持参した本が読めるスペース
- 各階にバリアフリー等に配慮したトイレを設置する。
- 地域住民の利用も考慮し、セキュリティ対策も必要。
- 駐車場は玄関近くにした方がよい
- 職員室から人の出入りが見えるような工夫があるとよい。

<相談室>

- 各学年に1対1で相談できる場所があるとよい。
- 先生以外に相談できる場所。
- 先生と話すことはハードルがある生徒も相談室は気楽に利用している
- 相談員の設置は必要

<適応教室>

- 相談室や適応教室は靴下で過ごせるようにすると気持ちが落ち着くかも

テーマ② 児童生徒が先生と交流しやすい環境づくり

児童生徒が先生と交流しやすい環境づくりに関する主な意見

<職員室>

- 廊下側をガラス張りで見えやすく。
- 採光を取り入れた明るく広い職員室。
- オープンな職員室でカウンターを設置。入りやすいし、話しもしやすい。
- 子どもが気軽に入れる空間づくり
- 小中学校の職員室は一体とし、相互の交流を図れるようにする。
- オープンすぎると先生も落ち着けないすりガラス程度の配慮はあるとよい
- 先生たちの個人用ロッカー

<相談室>

- 相談室はあまり密室にならないよう、でもプライバシーへの配慮も必要。
- タブレットで児童生徒と先生が繋がれるようにする（相談がしやすい工夫）

<休憩室・交流スペース>

- 小・中の教員同士で交流できる空間
- 先生用のカームダウン室が必要

<教材室>

- 学年・教科ごとに教材が異なるため、小中別々に設ける。
- パーテーションで仕切れるようにし、対応の幅を広げられるようにする。